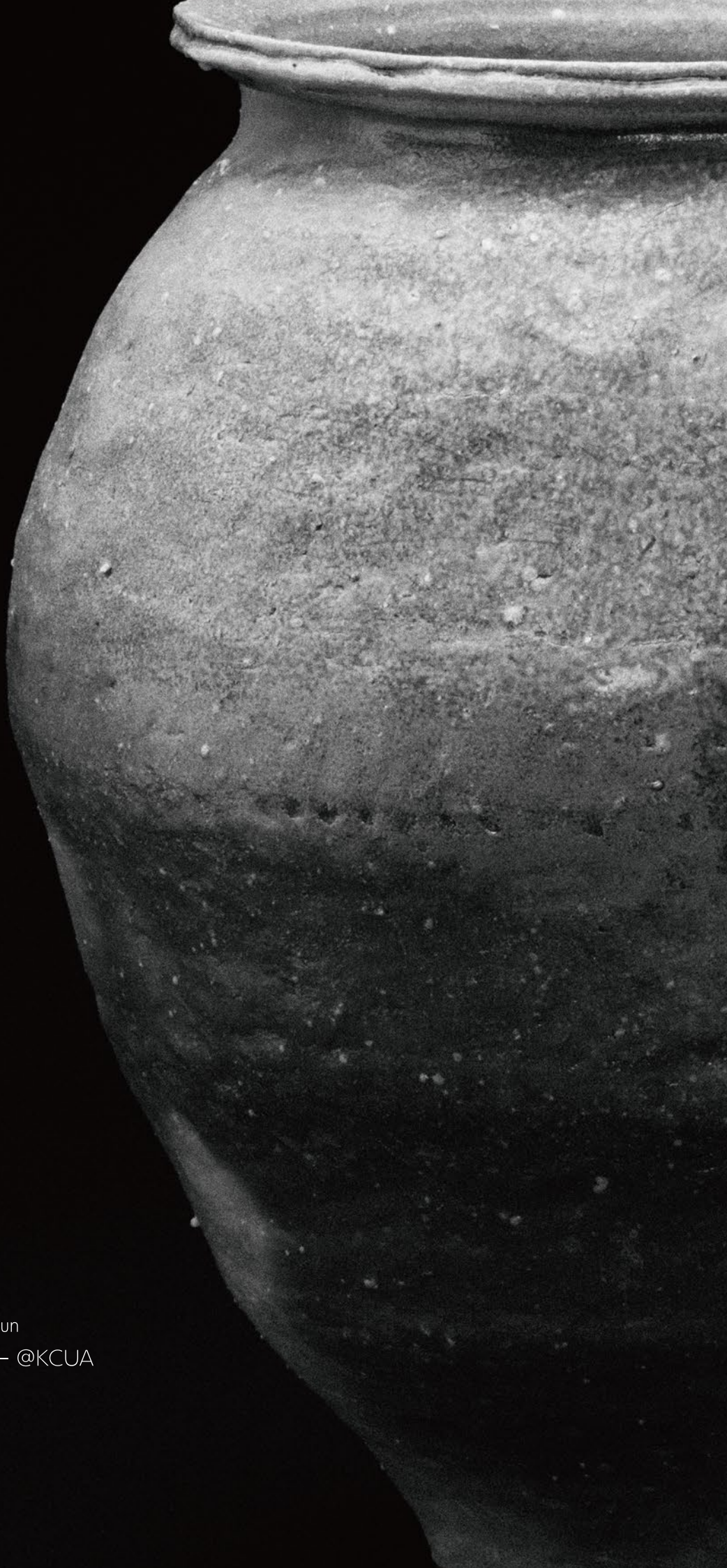


個 | 谷
展 | 穹

□□
□□



2015.11.21 sat -12.6 sun

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

個 | 谷 展 | 穹

2015.11.21 sat -12.6 sun 11:00 - 19:00 (最終入場18:30まで)
休館日 11.24 tue, 11.30 mon 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA



信楽在住の陶芸家 ^{たにきゆう} 谷穹の個展『器』を開催いたします。

室町時代に信楽で作られていた「古信楽」を再び作り出すこと、室町時代の人々の美意識と遊び心を現代的な視点から捉え返すこと。谷はこれまで、器を通じて「かつて」と「いま」を架橋しようとする企図のもと、制作・発表活動を行ってきました。本展において谷は、空間を設え、その中に甕を一点据えます。甕という器と京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAの空間が響きあう中へ歩み入るとき、鑑賞者はどのような風景に出会うのでしょうか。ぜひご覧ください。

谷穹 (たにきゆう)

- 1977年 滋賀県生まれ
- 2000年 成安造形大学立体造形クラス卒業
- 2001年 彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行
- 2002年 北村寿三氏のもとロクロの指導を受ける
- 2003年 信楽 清右衛門陶房に入る

主な個展

- 2005年 「不在庵」ギャラリー陶夢(滋賀)
- 2006年 「LAND e SCAPE」成安造形大学ギャラリーアートサイト(滋賀)
- 2007年 キュレーターズアイ「LAND Re SCAPE」ギャラリーマロニエ(京都)
- 2008年 「Gundaroo」Old Saint Lukes Studio Gallery(オーストラリア)
- 2013年 「LAND e SCAPE」滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー(滋賀)
ギャラリー陶園(以後毎年)(滋賀)
- 2015年 「LAND e SCAPE」ギャラリーハルク(京都)

グループ展

- 2015年 「これからの、未来の途中—美術・工芸・デザインの新鋭11人展」
京都工芸繊維大学美術工芸資料館(京都)
「信楽陶 有楽 若手作家展」 ギャラリー有楽(滋賀)

その他

- 2007年 双胴式穴窯 築窯
- 2012年 単室式穴窯 築窯
- 2014年 「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」

コレクション

- 2014年 《信楽 大甕》(2014年制作) ポートランド美術館(アメリカ)

アーティストトーク

11月21日(土) 15:00~

中ハシクシゲ(京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻 教授) × 谷穹

※参加費無料・申込不要

オープニングレセプション

11月21日(土) 16:00~

(同時開催の「岡崎和郎/大西伸明 Born Twice」との合同レセプション)

本展は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が若手作家の育成支援を目的に実施している「未来の途中」プロジェクトの一環として開催されるものです。昨年度、「これからの、未来の途中—美術・工芸・デザインの新鋭11人展」(2015年1月~2月、京都工芸繊維大学美術工芸資料館)に出品した11名へのさらなる育成プログラムとして、今年度、京都にある15の大学のミュージアムで組織される「京都・大学ミュージアム連携」のネットワークを活用して、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAと京都造形芸術大学ARTZONEにおいて、展覧会を開催します。京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、8月にプロジェクト内公募を実施し、その結果、谷穹のプランが採択されました。

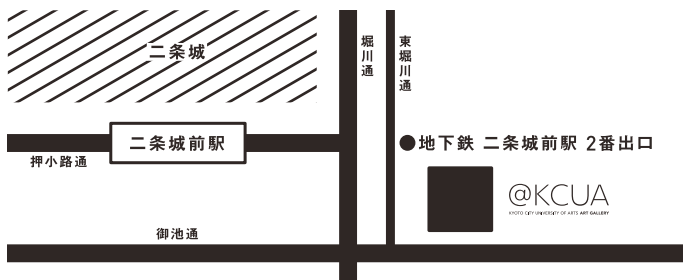
私の要素は「壺」です

「壺」の妙は「壺」でしかないことです。「壺」とは何も表現しないものです。ゆえに、それはいつまでも不完全で不確定なものとして存在し、季節に移ろいながら持ち主とともに枯れてゆきます。壺のない国はありません。壺はその土地の風土によって大きく変化します。壺はその国の歴史そのものを表しています。

その中でも古信楽(12世紀から15世紀)の壺は他に類を見ません。無骨で粗雑にも見て取れる端正なつくりや、自然釉による独特の景色は、存在そのものが「遊び」だと感じます。「古信楽」は日本の美意識の根幹ともいわれています。しかし、わたしの制作は再現を目的にしている訳ではありません。世阿弥が芸にまつわる多くの書物を残し、民衆によって芸の評価がなされてきた、室町幽玄思想の美意識を体現させたいのです。

私のもうひとつの要素は「仕組み」です。

くぐる またぐ かかむ よける ちかづく
のぞく すわる にじる さわる みあげる
場が観者の行動を提供する仕組みは、茶事などにもおおいに利用されてきました。場に与えられた行動は滑稽で、人間的な要素を引き出します。仕組みの中において壺は「うつわ」であり空(カラ)でもあります。空間の中心であり彼岸です。私の仕組みの要素は壺さながらの不完全さにあります。



主催 文化庁、京都工芸繊維大学、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、京都市立芸術大学
制作 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 文化庁委託事業「平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館 MUSEUM AND ARCHIVES
京都・大学ミュージアム連携 University Museum Association of Kyoto
京都市立芸術大学 @KCUA Kyoto City University of Arts KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

〒604-0052 京都市中京区押小路町238-1
TEL: 075-253-1509 WEB: <http://gallery.kcuu.ac.jp>

交通案内：地下鉄「二条城前」駅(2番出口)南東へ徒歩約3分、
市バス「堀川御池」バス停下車すぐ